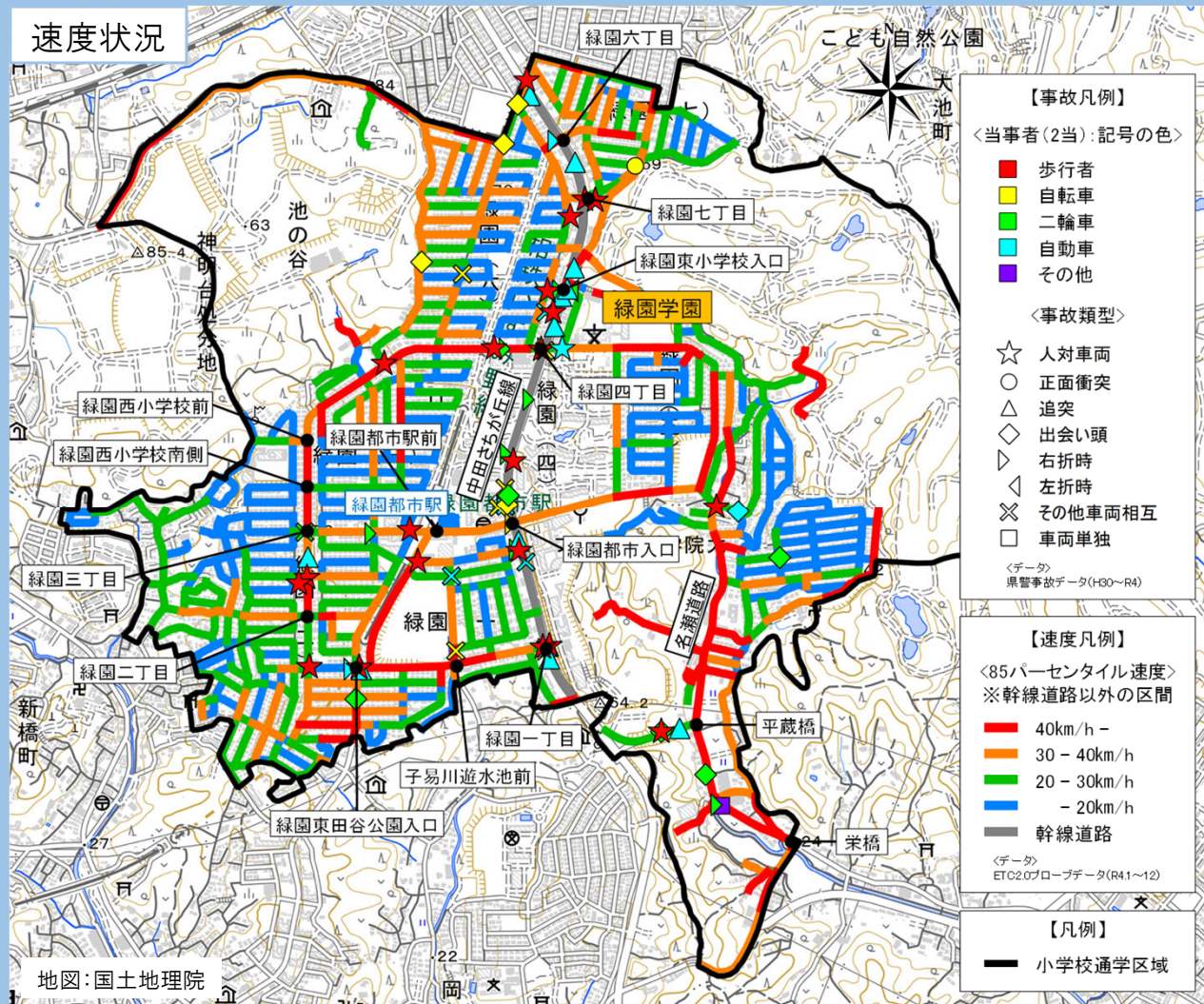
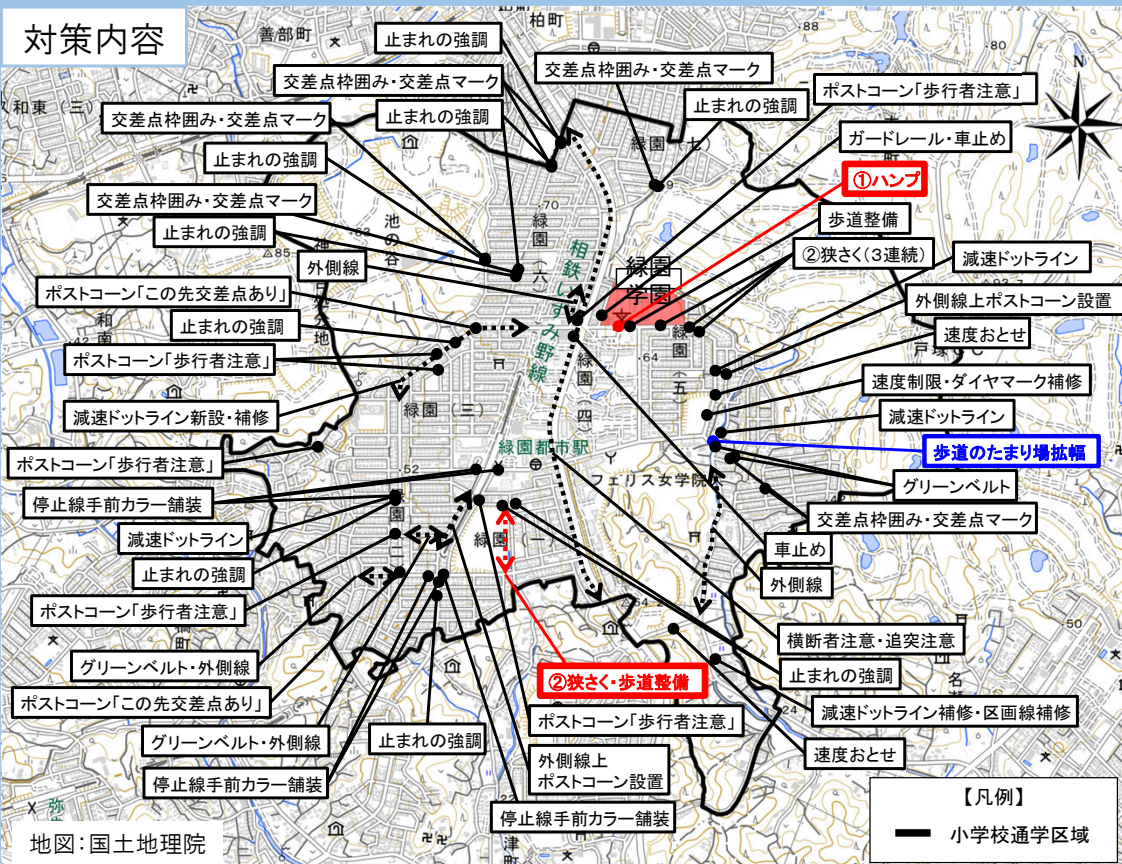


速度状況と対策内容

ETC2.0 から得られた車両速度データや交通事故データなどをもとに対策を検討し、学校や地域と協議を重ねた上で対策を実施した。スクールゾーン協議会の要望をうけ、学校前の道路に速度抑制を目的としたハンプや狭さくを設置した。また、校区全体で路面表示などによる注意喚起も行い、児童の登下校時の安全確保を図った。



※ETC2.0分析結果（国土交通省提供）を加工し、横浜市が作成
※交通事故データ（神奈川県警）より抽出



【対策内容】

- ・ハンプ
- ・狭さく（3連続）
- ・狭さく・歩道整備
- ・歩道のたまり場拡幅
- ・交差点枠囲み・交差点マーク
- ・止まれの強調
- ・停止線手前カラー舗装
- ・ポストコーン「この先交差点あり」「歩行者注意」
- ・路面表示「横断者注意」「追突注意」「速度おとせ」
- ・減速ドットライン・注意喚起対策
- ・グリーンベルト・外側線
- ・ガードレール・車止め
- ・補修：区画線など

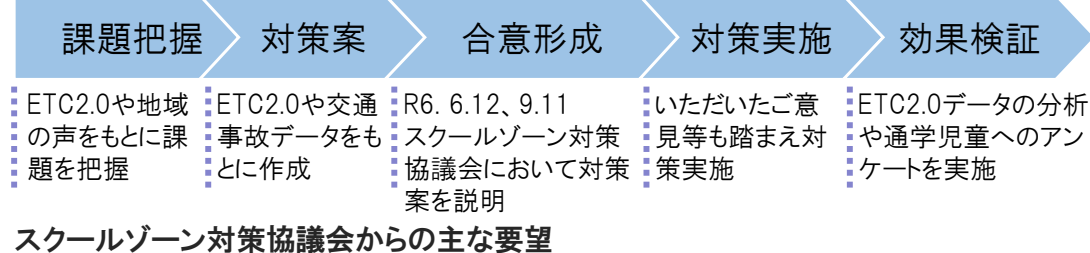
① ハンプ



② 狭さく・歩道整備



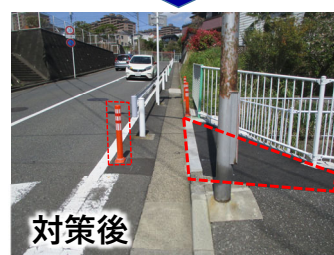
交通安全対策取組フロー



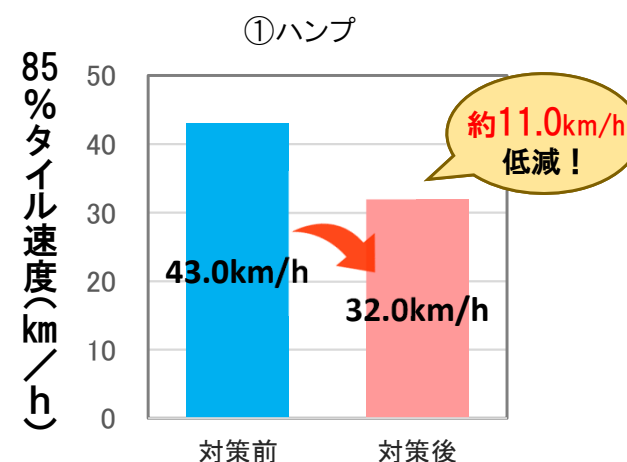
学校前にスムーズ横断歩道が設置されているが、いまだ車両速度が高く危険なため、追加対策をしてほしい。

名瀬上交差点は歩道が狭く、歩道に児童があふれて道路にはみ出てしまい危険なため、歩道のたまり場を広くしてほしい。

歩道のたまり場拡幅

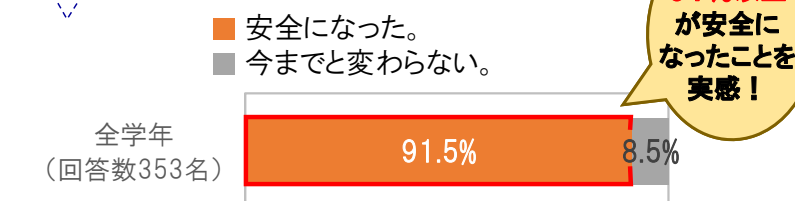


走行速度の分析効果比較



児童向けアンケート

Q. 工事をして、安全になったと思いますか？



車道に段差をつけたことで速度が落ち、歩行者の安全がより確保されたと思います。

緑園学園児童（5年生）

一丁目公園付近の歩道を作ったことで、安心して一丁目付近を歩けるようになりました。

緑園学園児童（4年生）

国土交通省より提供されたETC2.0プローブデータを活用し、内閣府総合科学技術・イノベーション会議の下で推進する「戦略的イノベーション創造プログラム（SPI）第3期/スマートモビリティプラットフォームの構築/都市内街路交通をリデザインするための技術・政策パッケージの開発」（研究推進法人：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）の中で、横浜市との連携のもと、分析・検証を行ったもの
※ETC2.0プローブデータ：走行履歴（対策前 R6.5 対策後 R7.5）
※研究推進法人：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO管理番号：JPNP23023）の成果が含まれている

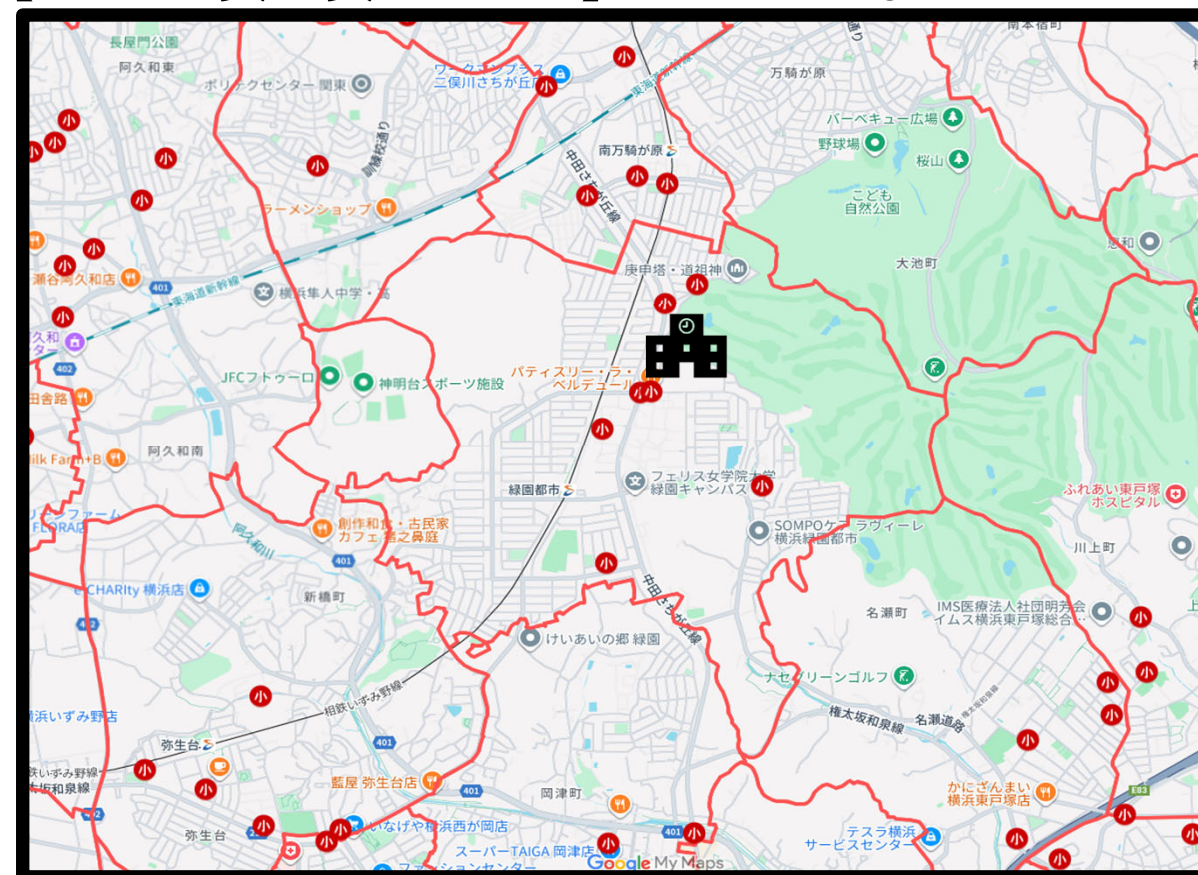
泉区 義務教育学校 緑園学園

【対策方針】

- 3年生の地域学習の一環として、危険個所の確認やマッピング、交通安全に関連する番組視聴を通して交通安全について考える。
- スクールゾーン対策協議会に児童の意見を提出し、子どもの意見を協議会に反映させるとともに、児童の社会参画意識を養う。
- スクールゾーン対策協議会の検討結果を基に、自分たちが地域に向けて取り組める啓蒙活動を考え、実施する。

【こども・安全安心マップ】

引用:Googleマップ



■ 対策事例

□イロノートで危険個所のカード作成



生活体験をもとに危険個所についての情報カードを□イロノートで作成

【学校からのコメント】
危険個所を写真付きで説明することで、分かりやすく共有することができた

放課後キッズクラブ交通安全教室

(実施日:(1回目)令和6年8月26日(2回目)令和6年12月24日 参加人数:101名)



下校時間の遅く1人で帰ることが多い放課後キッズクラブの児童に向けて、委託事業者による交通安全教室を実施

【交通安全教室の主な内容】
こども・安全安心マップを基に、交通安全マップを作成するグループワーク

はまっこ交通安全教室

(実施日:令和6年6月17日 参加人数:270名)



※写真は対象校とは異なります

道路を1人で歩くことが多くなる1年生と自転車を使い始める4年生を対象に、交通安全協会が交通安全教室を実施

【交通安全教室の主な内容】
1年生:道路の正しい歩き方
4年生:自転車の乗り方 ほか

幼児交通安全訪問指導

(実施日:令和6年4月23日ほか1回実施 参加人数:計75名)



※写真は対象園とは異なります

未就学児を対象に道路の歩き方などをパネルシアター等を用いて道路局の幼児交通安全教育指導員が実施

【訪問した園】
GENKIDS緑園都市保育園
小学館アカデミーりよくえんとし保育園